



令和2年7月豪雨災害等 被災地支援活動報告

Vol. 2

西九州大学社会福祉学科の学生、卒業生、教員により編成された被災地支援チーム「OKBASE」では、被災地の復興を推し進めるため、様々な機関・団体と連携し、被災者一人ひとりに寄り添った支援に取り組んでいます。



西九州大学 健康福祉学部 社会福祉学科
被災地支援チーム OKBASE

【 助成プログラム 】

- ◆令和2年7月豪雨災害・学生災害ボランティア支援の会「学生災害ボランティア支援金」
- ◆佐賀未来創造基金「佐賀災害基金」(第2期、第3期)

I

地域住民に寄り添った支援を

～コロナ禍における活動を進めるにあたって～

代表 岡部 由紀夫 (社会福祉学科 講師 / 社会福祉士)

コロナ禍における様々な制約がある中、発生した令和2年7月豪雨災害。熊本県人吉市をはじめ、多くの地域で甚大な被害をもたらしました。災害支援の活動にも制限がかかる中、本チームも佐賀県内を中心に、戸別訪問による足湯、ハンドケアや地域サロンでの活動支援など、様々な支援活動に取り組んできました。

これからも感染症対策を行いながら、災害支援に携わる様々な団体と連携・協力を図り、また多くの被災者の方々と関わる中で、一緒になって復興に向けた歩みを進めていきたいと考えています。

II

佐賀県太良町での被災地支援活動

～活動を通して被災者からいただいた元気～

鶴 啓佑 (社会福祉学科3年)

今回、太良町で初めて被災地支援の活動に関わり、戸別訪問を通して、ハンドケア、足湯を行いました。

戸別訪問でハンドケアや足湯を行う目的は、身体的、精神的なストレスの緩和、住民さんにとって気軽に話せる相手の1人になることです。気軽に話せる相手になることにより、住民さんの呟いた一言がニーズ発見に

繋がっていきます。また、戸別訪問を通し、社会福祉協議会を始めとした様々な団体等と連携を行うことは、災害後のニーズに対する支援の幅が、大きく広がることになると実感できました。

被災地支援と初めて聞いたときは、泥出しや汗まみれになりながら家屋の復旧を行うようなイメージでした。しかし、被災地支援活動に取り組むと、イメージとは異なり、ボランティアとして元気づけるために現地へ行っているのに、逆に自分が元気づけられ、勉強させていただいているように感じました。



III

福岡県大牟田市での被災地支援活動

～被災者と支援者をつなぐオンラインサロン会～

副代表 竹井奏颯 (社会福祉学科4年)

令和2年7月豪雨災害により被害を受けた大牟田市にて10月～12月の3か月の間、活動に取り組みました。10月は主に炊き出し支援、11～12月はサロン活動の支援を行い、足湯やハンドケア等を通し、被災された住民さんへ癒しを提供する活動を行っています。

特に、12月22日にはオンラインサロン会を神戸大学学生震災救援隊、学生応援村と協力して開催し、防災クイズ、フリートーク等の時間を設け、遠方にいる学生と一緒に楽しむ機会を作ることができました。

住民さんの中には、初めてタブレットを触れ、「若者が使うものだと思っていたけど、触れてみると難しくないし、便利。」「被災当時は、ラジオでしか情報が分からなかったけれど、これなら使えるかもしれない」というような言葉も伺うことができました。

今後も、オンライン等を活用し、被災者と災害支援に関わる学生ボランティアをつなげ、そこに関わる方々を笑顔にできるような活動を目指していきます。



IV

被災地へ物資を届ける後方支援 ～OKBASE おもちゃプロジェクト～

副代表 平川 悟（令和2年度卒業生 / 社会福祉士・精神保健福祉士）

「おもちゃプロジェクト」は、今回の豪雨災害により、おもちゃが壊れたり、流されたり、汚れてしまって悲しんでいる子どもたちに、家庭で眠ってるおもちゃや絵本、文房具などを送る事を目的に立ち上げました。

このプロジェクトの第一弾では、学生たちで集めたタオルや雑巾を、佐賀県鳥栖市を中心に活躍されている7月豪雨災害復興支援チーム「We Wish」に託し、熊本県芦北町へ運んでいただきました。

今後も被災地の子どもたちの為に、おもちゃを中心に支援物資を集めていきたいと思えます。



V

武雄市での被災地支援活動 ～防災キャンプで感じた日常生活の当たり前～

林 智子（社会福祉学科3年）

令和元年佐賀豪雨災害から2年が経とうとしています。発災後からおもやいボランティアセンターを通じて、継続した活動に取り組んできました。

11月7～8日と2日間に渡り、おもやいボランティアセンターで行われた防災フェス&マルシェに参加しました。今回のイベントでは防災キャンプがあり、電気やトイレ、水道が使えなくなっており、実際の災害時を想定して、キャンプを行いました。特に困ったのがトイレです。普段は水洗トイレやウォッシュレットトイレが多くのお家庭にあります。今回は段ボールトイレでの対応となりました。中にビニールを装着し、排泄したものを凝固剤で固めて持ち帰るという流れで使用しました。普段、当たり前のように使用している電気、ガス、水道。何気なく使用しているからこそ、使用できなくなって不便さを実感することができました。



被災地支援の活動に様々な団体からご協力いただいています。ありがとうございます。

- ・高機能マスク：日本ソーシャルワーク教育学校連盟 様（東京都）
- ・足湯用タオル：上峰町社会福祉協議会 様（佐賀県）



被災地支援の活動取材していただきました。

- ・NHK 総合 福岡放送局「ロクいち！」令和2年12月22日放送
『7月の豪雨災害で被害を受けた大牟田市の被災者と学生がオンライン交流』
- ・旺文社「螢雪時代12月号」令和2年11月13日発行
『タオルや雑巾を収集し豪雨災害の被災地を支援』
- ・佐賀県地域おこし協力隊ネットワーク「佐賀未来創造基金 Facebook」令和2年10月31日掲載
『佐賀災害基金 助成団体レポート 被災地支援チーム OKBASE』

学生災害ボラのチカラ

つながる学生災害ボランティア！！

神戸大学学生震災救援隊、学生応援村等の団体と連携・協力

令和2年度は、新しいメンバーも加わって活動に取り組みました。また、これまで同様に様々な団体からサポートを受け、連携を図り、学生として被災地でできることを考えながら活動を展開しています。

新型コロナウイルスの流行拡大により、被災地での支援活動が難しい環境にあり、試行錯誤を重ねながら活動に取り組んできました。その中で、オンラインサロン会を武雄市と大牟田市で行うことができました。以前より共に被災地での活動を行っている神戸大学学生震災救援隊、令和2年度より活動を開始した学生応援村（主催：応援村事務局）ともつながり、学生災害ボランティアの輪も広がりを見せています。

今後も、被災地で『学生だからこそできる』支援活動を模索しながら、他大学・他団体との連携を図り、被災地が1日でも早く復興できることを願い協力していきます。

活動実績

活動日数：65日 活動者数：130名（延べ） 令和3年3月末現在
研修会等での活動報告、チーム内研修会の実施も

※新型コロナウイルス感染防止のため、令和2年4月、5月、令和3年1月、2月は活動を自粛

令和2年4～5月は、マスク（120枚程度）を作成し、武雄市等で配布しました。

令和2年6月 ・地域：佐賀市 ・日数：1日 ・人数：延べ2名

・内容：現地調査、マスク作成

令和2年7月 ・地域：太良町、武雄市、鳥栖市 ・日数：3日間 人数：延べ6名

・内容：訪問活動、マスク作成、支援物資配達、サロン活動、活動報告など

令和2年8月 ・地域：武雄市、太良町 ・日数：10日間 人数：延べ12名

・内容：床下清掃、訪問活動、家具運搬、サロン活動など

令和2年9月 ・地域：武雄市、太良町、佐賀市 ・日数：11日間 人数：延べ20名

・内容：訪問活動、床下清掃、荷物の搬入、サロン活動、いどばた会議など

令和2年10月 ・地域：太良町、武雄市、大牟田市 ・日数：11日間 ・人数延べ28名

・内容：サロン活動、オンラインサロン会、炊き出し支援、訪問活動など

令和2年11月 ・地域：太良町、武雄市、大牟田市 ・日数：10日間 ・人数延べ26名

・内容：サロン活動、訪問活動、物資配達、受付対応、会場設営など

令和2年12月 ・地域：武雄市、太良町、大牟田市 ・日数13日間 ・人数延べ28名

・内容：サロン活動、オンラインサロン会、訪問活動、炊き出しなど

令和3年3月 ・地域：武雄市、太良町、神崎市 ・日数：6日間 ・人数：延べ8名

・内容：防災イベント、訪問活動、拠点引っ越しの手伝い、活動報告会

◆神戸大学学生震災救援隊、学生応援村とのオンライン会議を2週間に1度開催

◆令和2年7月豪雨災害・学生災害ボランティア支援の会 第1回学生災害ボランティア活動報告会（令和3年3月）、佐賀市市民活動プラザ いどばた会議（令和2年9月）において本活動を報告

OKBASE（オカベース）

代表：岡部 由紀夫

【事務局】〒842-8585 佐賀県神崎市神埼町尾崎 4490-9 西九州大学 岡部研究室内

TEL：0952-37-9263（岡部研究室） E-mail：okbase@icloud.com

FB：https://www.facebook.com/okbase.249univ/

